

授業科目 保健医療福祉連携学Ⅰ（医療現場）

【担当教員名】 金谷 光子、吉岡 豊 渡辺 時生、渡邊 榮吉	対象学年	3	対象学科	理学・作業・言語・義肢・健栄・スポ・社会・看護
	開講時期	前期 a	必修選択	選択
	単位数	1	時間数	15

【カリキュラムポリシーとの関連性】				
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

【概要・一般目標：GI0】
医療の高度化に伴い、医療現場では多職種間の連携なしには効果的な援助は出来ない状況にあるといえる。本講義では医療現場において行われる様々な連携のあり方について、多職種の専門性をふまえながらその実態と必要性について理解する。
(1) 医療現場における各専門職の役割について知る
(2) 医療現場における連携の必要性を理解する
(3) 医療現場で行われている連携の実際を知る。

【学習目標・行動目標：SBO】
1. 医療における各専門職の役割について列挙する
2. 医療現場における連携の必要性について説明する。
3. 医療現場における多職種の連携の実際について述べる。
4. グループワークを通して、それぞれが学んでいる専門分野の立場から意見を述べる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	【オリエンテーション】医療現場における多専門職間の連携の必要性とその実際		金谷光子（看護学科） 渡邊榮吉（健康栄養学科） 担当教員 および ファシリテータ教員 吉岡 豊（言語聴覚学科） 担当教員 および ファシリテータ教員 渡辺時生（言語聴覚学科） 担当教員 および ファシリテータ教員 金谷光子（看護学科）、他
2	【講義】医療現場における各専門職の連携の実際：メタボリックシンドロームを通して		
3	【グループワーク】メタボリックシンドロームを通して		
4	【講義】医療現場における各専門職の連携の実際：失語症を通して		
5	【グループワーク】失語症を通して		
6	【講義】医療現場における各専門職の実際：脳性麻痺を通して		
7	【グループワーク】脳性麻痺を通して		
8	【リフレクション】授業のまとめ・グループのふりかえり		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書				
その他の資料	その都度提示			

<p>【評価方法】 出席は2/3以上を前提とする。 1. 授業への出席状況 40% 2. その他、グループワークへの積極的取り組みやレポート等が60%（授業のたびに200字程度のレポート） 授業中は積極的に発言すること。</p>	<p>【履修上の留意点】 授業は講義とグループワークを交互に実施する。 グループワークは、医療の現場における事例への適切な対応について、連携を中心にすえた話しあいにより時間内にグループ発表をおこなうものである。グループは受講者160名が5～6名程度ずつ30グループを形成し、3回のグループワークにおいて各グループのメンバーは変更しない。</p>
--	--